

Developers Summit 2014 参加報告

雨宮尚範、伊藤康広

工学系技術支援室 情報通信技術系

はじめに

Developers Summit (デブサミ) では国内の開発者により、技術や開発手法、企業における開発事例などについて講演が行われる。講演を通じてさまざまな技術者の考え方に触れることは、有用な知識の獲得に役立てられるものと考えられる。今回、技術や開発手法の見識を深め、我々の業務に役立てられるような知識を得ることを目的として Developers Summit 2014 に参加したので報告する。

1. Developers Summit について

Developers Summit は翔泳社主催の技術カンファレンスである。学びの場としてのコミュニティを重視し、議論の活性化や会社などの壁を超えた交流を行うイベントとして 2003 年から毎年開催されている。2012 年までは「共感」を大きなテーマに 10 回で終了するプロジェクトとして実行されてきたが、2013 年からは「Action!」をテーマとした第 2 章としてリスタートした。

2. 開催概要

Developers Summit 2014 は平成 26 年 2 月 14 日 (木) ~15 日 (金) に東京・目黒の目黒雅叙園で開催された。「HTML5」、「IaaS」、「Mobile」、「Process」、「web」などの分野について 74 のセッションがあり、それらは 5 つの会場で並行して行われた。各セッションは 20~50 分程度で、1 日の最後にあるセッションには 85 分が割り当てられていた。ただし、今回は降雪の影響で 2 日目が短縮日程となった。

セッションへの参加には事前登録が必要であり、参加登録は開催の 1 ヶ月程度前から Developers Summit の Web ページで行うことができた。

※スケジュールなどは固有名詞を含む項目があり、転載の許可を得ていないので省略する。

3. 内容について

今回の傾向について、新技術関連のセッションはそれほど数がなく、既存の技術や手法をうまく使用するという内容のものが中心であったように思う。内容は世相を反映してクラウドやモバイル関係のものが多かった。前回と比較して開発プロセスに関係したものが増えたという印象を受けた。技術や開発手法だけでなく、開発を含めた業務を行うための組織構造や企業文化、新人エンジニアの教育に関する内容を扱っているセッションもあった。

さまざまな講演を聴講して、問題に対応した手段を選ぶことの重要性をあらためて感じた。今後も技術や開発手法について理解を深め、正確な判断ができるよう努力していきたい。

4. まとめ

Developers Summit 2014 に参加して、技術者の講演を通じ技術や開発手法などについて見識

を深めた。さまざまなやり方や考え方に触れることができ、刺激になったように思う。

今回参加して得られた知識や技術に関するキーワードなどを参考に、よりいっそう技術や開発手法について理解を深め、技術者として成長していきたい。

謝辞

Developers Summit 参加の機会を与えてくださった情報通信技術系の皆様、ならびに Developers Summit の実行に携わった多くの方々に感謝する。